

《備考》

【国史跡 福岡城跡とは】

福岡城は初代藩主黒田長政とその父黒田如水（官兵衛）により、1601（慶長 6）年～1607（慶長 12）年にかけて築城された平山城です。城内は本丸・二ノ丸・三ノ丸で構成されています。城内面積は約 41 万㎡、濠を含めた総面積は約 110 万㎡で、九州の城の中でも有数の規模です。

城内には 47 の櫓があったとされ、その他に本丸御殿、御下屋敷など多くの建造物がありましたが、明治以降ほとんどの建物が解体・払下げ等で失われ、城内に現存する建物は多聞櫓などごく一部です。1957（昭和 32）年に国史跡指定を受けています。

【潮見櫓とは】

潮見櫓は木造二階建ての建物で、福岡城三ノ丸の北西隅に位置する角櫓（すみやぐら）です。海上の監視を行ったことから名付けられたとも言われ、築城後の早い時期から絵図等でその存在が確認でき、文献によれば 1799（寛政 11）年に修理された記録が残っています。

1908（明治 41）年に旧藩主の黒田家の菩提寺である崇福寺（博多区千代）に払い下げられ、仏殿として使用されていましたが、その時に誤って月見櫓と伝えられてきました。1990（平成 2）年に調査を行ったところ、潮見櫓の証拠を示す棟札が発見され、正しい名称が分かり、このたび本来の場所に移築・復元を行いました。

【潮見櫓 地図】

